

神奈川県 JA全農かながわ（温州みかんをカナダへ）



みかん輸出用ダンボール

温州みかんの輸出は、神奈川出身でバンクーバー在住の輸入雑貨商を通して、大正初期からアメリカ・カナダ向けに始まり、生産者の所得増加や需給調整としての役割を担う。平成11年以降は、カナダ向けのみの輸出となっている。
カナダではクリスマスオレンジとして親しまれ、この時期においてなくてはならないものとなっている。

神奈川県産のみかん輸出量、輸出額

平成18年 197トン 1680万円

平成19年 208トン 1723万円

※平成19年については概算値

【販売戦略、工夫した点等】

- ・輸出当初は個人での輸出となっていたが、相手国の需要の増加により出荷組合を発足し、現在は、JA全農かながわが県内の温州みかんを集荷し、日本園芸農業協同組合連合会が全国の荷をまとめ輸出。
- ・輸出に際し、当初、輸送中の品質劣化などの課題があったが、検査の強化を図るなどの対応を実施。

【輸出によるプラスの効果等】

- ・みかんの特性である豊作と不作を繰り返す隔年結果等で、豊作となった年はその過剰生産分を輸出にあてることで価格調整が行われ、農家収入の安定とともに、地域経済の活性化が図られる。



輸出みかんの選果作業